



県土整備部長の新年あいさつ

県土整備部長 大澤 健治

平成24年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

旧年中は、県土の基盤整備の推進につきまして、皆様から一方ならぬ御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は3月に発生した東日本大震災や9月に発生した台風第15号などにより、県民の尊い生命や貴重な財産が失われ、八戸港などのインフラ施設や、水産業などの産業基盤に大きな被害を受け、改めて自然災害の脅威を認識させられました。

県では、震災発生直後から関係機関と連携を図りながら各般の対策を講じるとともに、5月に策定した「青森県復興プラン」に基づき、被災者の生活再建、産業復興、インフラ復興にスピード感を持って取り組んで参りました。

震災から9か月が経過しましたが、その間津波により甚大な被害を受け、港湾機能が失われた八戸港では、コンテナターミナルの復旧や、定期フェリー航路の再開など、着実に港湾機能の回復が図られており、防波堤などのインフラ施設の復旧工事についても順次着手しているところです。

また、県では昨年12月に策定した「青森県復興ビジョン」に基づき、スピード感を持って創造的復興を果たすための取組を推進することとしております。中でも「安全・安心、災害に強い新たな青森県づくり」は、県民の皆様の暮らしを支える基礎になるものであり、着実に進めていかなければならないと考えています。

県民の尊い生命と財産を災害から守り抜くためには、防潮堤や避難道路などの必要なハード整備を思い切って進めていくことが不可欠であり、県では「孤立集落をつくらない」という視点に立

ち、県民の命を守るインフラ整備を「防災公共」と新たに位置付け、今後計画的に推進していくこととしています。

また、国においては八戸・久慈自動車道などの三陸沿岸の高速道路を東日本大震災からの「復興道路」として全線整備することが決定され、平成24年度政府予算案には上北横断道路「天間林道路」の新規着手予算が計上されるなど、県内の主要幹線ネットワークの整備が着実に進むことが期待されます。

また、昨年11月には、県と青森市が整備を進めてきた都市計画道路3・2・2号内環状線の石江工区や、国が整備を進めてきた国道4号土屋バイパスがそれぞれ供用開始されました。両路線の開通により新青森駅から主要拠点へのアクセスが強化されるとともに、地域産業の発展や、観光の振興等の様々な分野に効果をもたらすものと期待しております。

県としましては、県民の皆様が安心と幸せを実感できる県土づくりのため、今後も引き続き計画的かつ効率的に社会基盤の整備を推進していきますので、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますの御活躍と御健勝を祈念し、新年のごあいさつといたします。